

# 英語教育における支援活動 ～小中英語支援室の活動を通して～

愛知教育大学  
教員養成高度化センター  
小中英語教育支援部門

特別経費プロジェクト中間報告会  
2012.7.30

中村正廣  
建内高昭  
藤原康弘  
尾崎俊介

高橋美由紀  
Ryan,Anthony  
田口達也  
江口 誠

道木一弘  
濱崎通世  
小泉直  
小川知恵

久野陽一  
小塚良孝  
Robins,Anthony

( 愛 知 教 育 大 学 外 国 語 教 育 講 座 )

# プロジェクトの課題

- 新学習指導要領に基づく小・中・高の連続性を見据えた授業モデルを策定することにより小学校段階で見られる「英語嫌い」、及び、中学校段階での学力差を解消することが可能となる。小学校外国語活動を経験した生徒に適した中学校英語教育の導入、また、小・中・高と連携した英語教育のあり方を検討することは、緊急かつ重要な課題である。

# 小学校外国語活動

- 2011年より5, 6年生に対し、年間35時間の外国語活動
- 目的「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを測ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の素地を養う」

(文部科学省a, 2008).

# 中学校英語

- 2012年度より年間の英語科授業時数は140時間に増加
- 学ぶ語数 900語から1200語に増加
- 聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4技能をバランスよく育成
- 「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」

(文部科学省b, 2008)

# 小中間の連携に関する アンケート調査結果(1) 2010年度実施

実施 小中英語支援室

小学校教員(27人)、中学校教員(63人)が回答。(2010年)

4=とてもそう思う 3=まあそう思う 2=あまりそう思わない

1=まったくそうおもわない

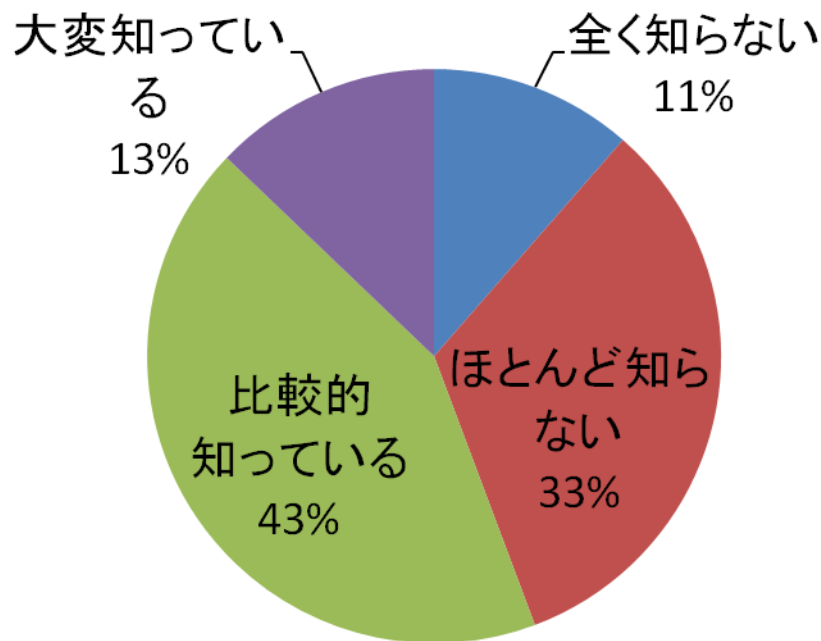
Q. 小中学校の連携についての現状はどうですか。

項目	小学校 (平均値)	中学校 (平均値)
①中学校の先生が小学校の英語の授業見学に行く	1.48	1.78
②小学校の先生が中学校の英語の授業見学に行く	1.48	1.48
③小学校の英語活動担当の先生と中学校の英語の先生とで集まる機会がある	1.70	1.88
④小学校の先生が中学校で英語の授業をすることがある	1.10	1.25

# 小中間の連携に関するアンケート 調査結果(1)2010年度実施

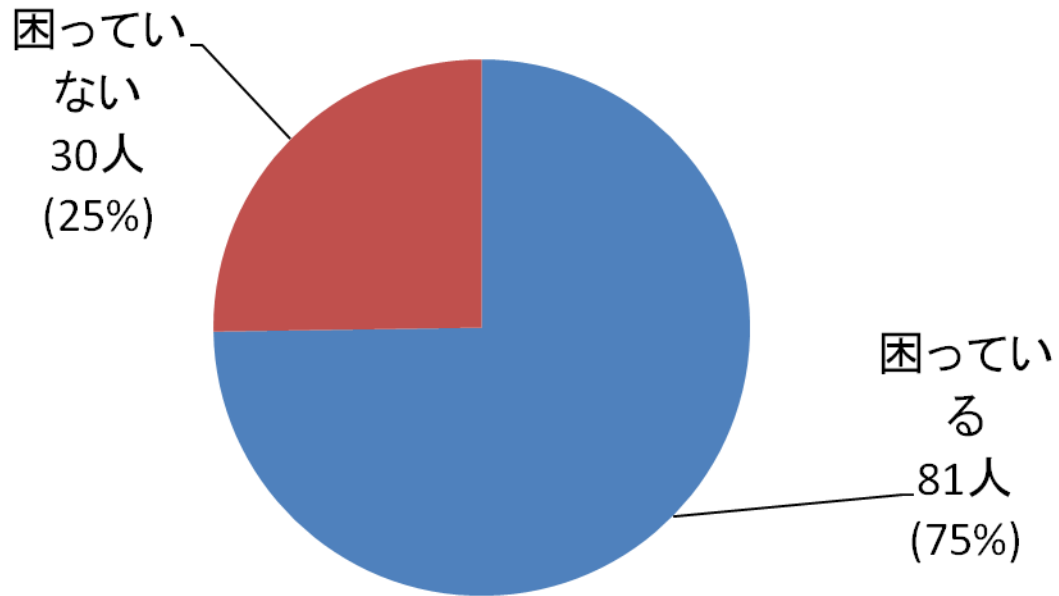
- 中学校教員

## 小学校の外国語について知っている

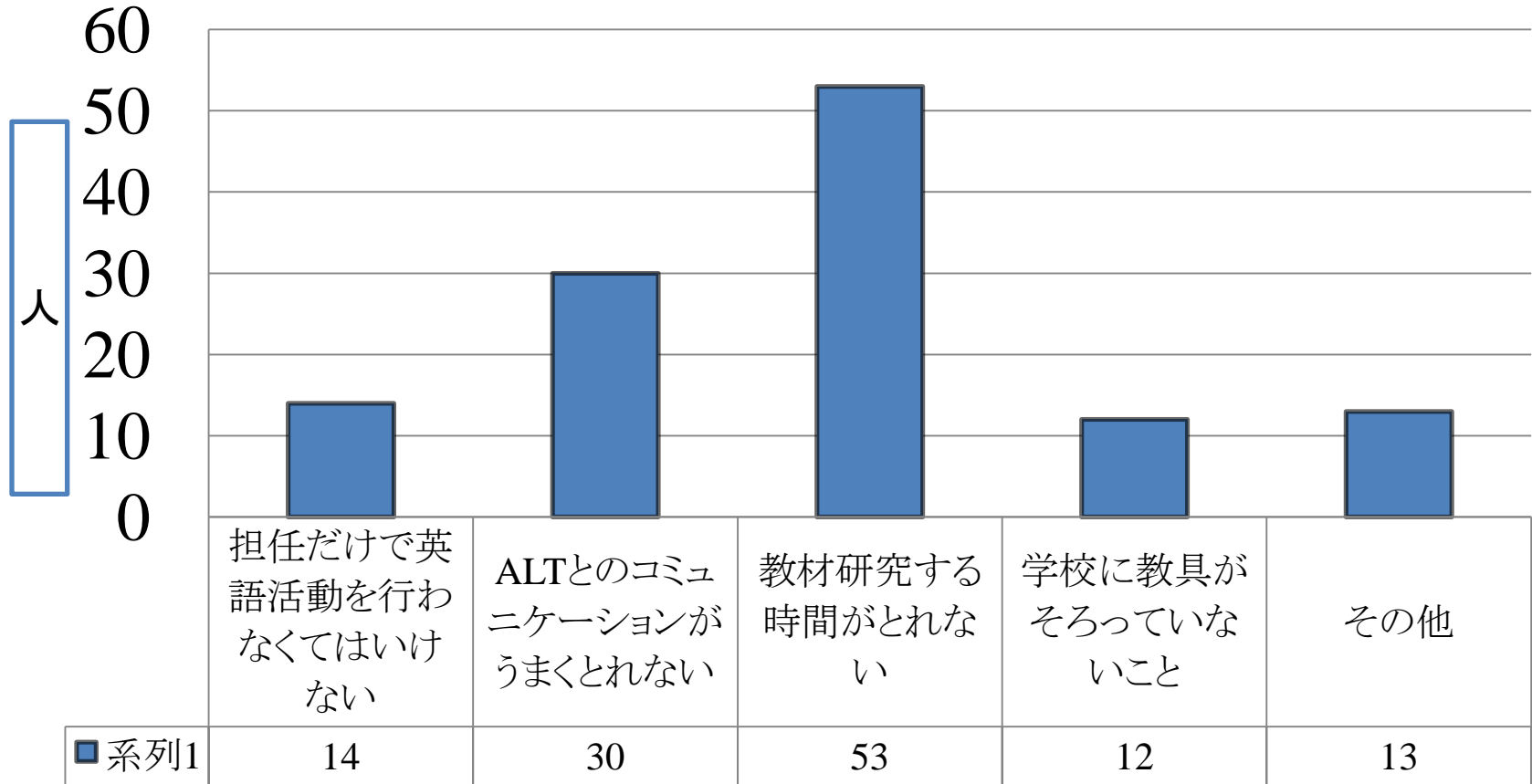


# 小学校教員の現状 アンケート調査結果(2)

- 愛知県の小学校19校の教員(114人)
- アンケート実施時期2010年8～9月
- 外国語活動で困っていますか。



# 小学校英語について困っている理由





# その他の理由

- 英語力・発音に自信がない（8人）
- ALTの問題（打ち合わせの時間がなく、制約が多すぎる等）（3人）
- 授業の仕方がわからない（2人）
- 早い段階から塾へ行く子どもがふえて混同してしまっている（1人）

# 小中英語支援室の目的

文部科学省特別経費（2010年度より採択）

- ①教員養成教育及び研修やリカレントプログラムの提示
- ②新学習指導要領に基づく小学校「外国語活動」から中学校「英語」への連携プランの提案
- ③特色ある大学教育の実現に向けた教員養成カリキュラムの研究開発とその試行
- ④公開シンポジウム等の開催により、東海地区の小学校・中学校・高校をつなぐ英語教育連携支援の拠点確立及び人的ネットワーク形成

# 取り組み状況

(2011年4月～2012年6月)

1. 小中連携に関する講演会等の開催
2. 学生派遣
3. 授業実践記録の蓄積とデジタルアーカイブの構築
4. TOEIC等外部試験の実施と、大学生の英語力向上に向けた学習環境整備
5. 愛知教育大学附属学校、研究協力校との連携

# 1. 講演会・研修会等の開催

- 地域の学校や、地域との連携及び協力を深める
- 地域で共有するネットワークの中心としての役割を果たす
- 地域の教員同士の連携の場
  - 小中の連携、小小・中中の連携
- 現職教員のリカレント教育の場
- 2010年度講演会の実施
  - 8月 小中英語支援室創設記念講演会
  - 12月教員研修会(2日間)  
愛知県内外の現職教員の実践報告、小中学校の取り組み、大学教員のセミナー・講演等
  - 2月教育講演会  
教育委員会(岡崎市・東海市・名古屋市)指導主事を招いて教育シンポジウムの開催
- 2011年度講演会の実施
  - 7月 英語教育講演会
  - 12月 英語教育教員研修会開催

# 研修会の様子



## 2. 学生派遣

### 目的

英語選修・専攻3年生は、9月～10月に教育実習(4週間)を経験し、それまで気づけなかった授業準備の大切さおよび授業者の視点の持ち方を強く意識できるようになる。近隣の学校にて、継続して子どもたちと関わり、また現場の教員から多くの事を学べる機会となる。

### 派遣学生

英語免許取得予定者 3年生

- ・中等教育教員養成英語専攻
- ・初等教育教員養成英語選修
- ・中等教育教員養成教育科学専攻・初等教育科学選修
- ・初等教育教員養成情報選修

## 2. 学生派遣

### 2011年度の取り組み状況報告

- 刈谷市、知立市、安城市、豊田市の小中学校  
(6小学校、7中学校)
- 派遣期間 2011年11月7日～2012年2月22日
  - 毎週月曜日午前2授業(1名のみ水曜)
- 派遣回数 13回
- 内容
  - 全体観察
  - 支援が必要な児童生徒の補助
  - T2として発音・ゲーム等の手本等

# 3. デジタルアーカイブの構築

- 授業実践録画記録収集

1. 外国語活動や英語教育の熟練した英語教師のモデルを記録し、提示することができる
2. 優れた教育実践を社会に還元することができることから、授業実践研究として有効である
3. 授業提供者に対して、教員自身の授業改善の意識を促すことができる

- 小学校外国語活動教材データ記録収集

1. 小・中学校教員は児童英語の実態を把握できる
2. 研究者は児童英語の研究ができる



## 4. 大学生の英語力向上に向けた学習環境整備

- TOEIC等外部試験の実施(年2回)
- 2012年度より、1年生英語Iと英語IIの評価において、TOEIC350点というバーを設ける。350点未満の学生対象にEラーニングの補習を行い補習テストを課す。
- 2012年7月TOEIC平均点449点、350点未満126名
- (2010年M=404点、2011年平均点438点)
- Eラーニングの導入による自学自習の環境整備
- 質問紙による、大学生の英語学習に関する実態調査、ニーズ調査の研究

## 5. 付属校・地域協力校

- 4つの附属学校（附属名古屋中学校、附属名古屋小学校、附属岡崎中学校、附属岡崎小学校）と連携を図る。
- 県内において優れた授業実践を行っている学校と連携し、各学校での研究の成果を本学の研修会にて発表してもらうことにより、地域あるいは学校同士がお互いの取り組みを知る機会を設けている。
- また教材開発を行い、地域の協力校などで利用してもらうよう取り組みを行っている。

# 今後の計画

- 小学校外国語活動から高等学校の英語教育までを見通した連携課題の検討
- 現場教員との研究会及び研修会等の開催の継続
  - (2012年8月26日、12月22日、23日)
- デジタルアーカイブの授業録画/教材関連データの収集
- 地域への学生派遣の継続(11月～2月)
- グローバル人材育成のための教員養成:オーストラリアへの派遣(8月～9月)
- 教員を目指す大学生の英語コミュニケーション能力の向上と、外国語活動の指導法の具体的な指導・助言及び、その研究
- 現職教員の英語力アンケート調査

# ありがとうございました

英語教育教員研修会

2012年8月26日(日)10時～17時

愛知教育大学共通第1棟301にて

お申し込み

小中英語支援室ホームページより

<http://www.aue-english.aichi-edu.ac.jp/>

# 参考文献

- 文部科学省a. (2008).『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』
- 文部科学省b. (2008).『中学校学習指導要領解説 外国語編』
- 文部科学省. (2009).『小学校外国語活動研修ガイドブック』. 東京: 旺文社
- 愛知教育大学外国語教育講座.(2011).『これからの小中英語教育を創る』. 愛知: 中部日本教育文化会